

ハンガリー紀行

竹内雄一（平成17年卒）

この度ハンガリーのセゲド大学に研究留学することになり、年明けに一週間ほど下見に行って参りました。ハンガリーに詳しい方は少ないと思いますので、最初に少し概略を書かせて頂きます。ハンガリーはオーストリアとウクライナの間に位置する人口約1000万人（2013年）の中欧国です。東京都よりやや少ない人数が日本の約4分の1の面積に住んでいるので、スペース的には日本より余裕があるようです。首都はブダペストで大体名古屋市ぐらいの人口です。公用語はハンガリー語ですが英語がかなり通じました。ハンガリーは1989年に社会主義政権を放棄して、民主主義や市場経済を取り入れました。その後2004年にはEUにも加盟して近代化が進んでいます。

私の留学先はセゲド大学医学部生理学部門の **Antal Berényi** 博士（愛称：トニー）の研究室です。セゲドは16万の人口を有するハンガリー第4の都市で、位置的には南部でセルビアやルーマニアとの国境に面しています。サラミで有名だそうで、実際とても美味しかったです。またダウンタウンは大学街なので治安も良く住みやすそうでした。留学先の上司となるトニーはまだ33歳（私より1つ上です）と若いですが、最近母校であるセゲド大学に研究室を構えました。知り合いの先生いわく“とんでもなく優秀な研究者”だそうです。トニーは医師免許を持った脳科学者ですがエレクトロニクスも得意で、新しい生体電気記録システムを開発して大学発ベンチャーで売っています。彼はその新システムを用いて、てんかんの発生機序解明や新しい治療法開発を目指しています。人柄はとてもフレンドリーで付き合いやすいそうで（もう1人の知り合いの先生談）、実際私を自宅に招いて奥さんの手料理とウニクムやパーリンカなどハンガリーのお酒でもてなしてくれました。彼の研究室には3日間滞在しまして、私自身の研究を発表したり実験や研究施設を見学したりしました。大学院生や学部学生も医学系研究室にしては多く、活気がある印象でした。

セゲド滞在の後、トニーとブダペストに移動しまして一緒にハンガリーの神経科学学会年会に参加しました。学会会場はドナウ川沿いのハンガリー科学アカデミー本部ビルです。ちょっと外に出ると対岸に王宮（ブダ城）を望む素晴らしいロケーションでした（写真1）。口頭発表会場も、ウィーンフィル・ニューイヤーコンサートでお馴染みのウィーン楽友協会大ホールを思わせる非常に美しいホールです。学会の印象は“研究人口は小さいがレベルは高い”というものでした。現在ハンガリーでは神経科学分野に4年で4000万ユーロ（約53億円）も公的研究費が出ているそうで、その勢いにも納得しました。学会後には少しブダペストを散策しました。首都中心地はそのまま観光地で、王宮の丘に登ったり、初代国王が収められている大聖堂を見学したりしました（写真2）。たまたま見つけた寿司屋がかなり美味しかったので、日本食が恋しくなったらここに来ようと決心しました（高かったです…）。

この会報が発行される1-3ヶ月後には妻と2人で出国して、2-3年修行して参ります。帰国しましたらまた薬友会に居場所を報告させて頂きたく存じますので、今後ともよ

ろしくお願い申し上げます。



写真1：懇親会会場から望む王宮とドナウ川

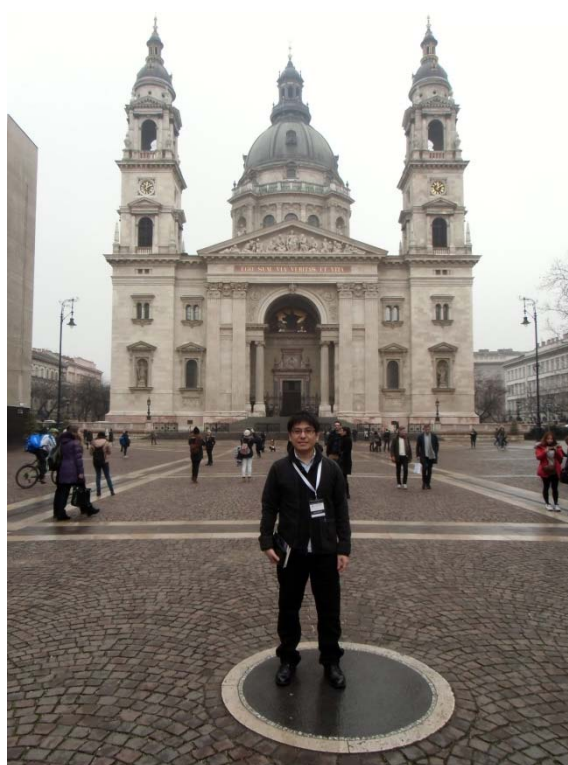


写真2：聖イシュトバーン大聖堂と筆者